



市議会だより



ハサがけ作業に
汗を流す
西長野小学校児童

主な内容

- 9月定例議会 2~3 P
- 一般質問 4~13 P
- 常任委員会だより 14~16 P
- 仙北市総合計画 17 P
- 各会計決算認定 18~19 P
- 意見書、決議文 20 P
- 控え室風景 21 P
- 編集後記 22 P

平成18年度 仙北市一般会計予算5億170万円を 追加補正し累計190億7,032万円に

平成17年度 企業会計(病院事業・温泉事業・水道事業)の 決算議案三件を認定

仙北市議会九月定例会は九月六日に招集され、二十七日までの二十二日間の会期で開催された。

市長提出議案は仙北市基本構想制定案や平成十八年度一般会計補正予算案、平成十七年度企業会計決算案など二十議案。

一般質問は前回同様十名が発言通告順で三日間にわたって行われた。

会期中に職員の不祥事や東北地方整備局が瀧神巧業(株)を二ヶ月間の指名停止とする報道があり、特に後者の件は、角館小学校新築工事請負契約締結議案が最終本会議に追加提案される予定であった事から最後まで緊張感漂う議会となった。二十七日の最終本会議で採決が行われ、市長提出議案は、追加議案を含め二十二件全てを可決、認定、議員提出議案四件を可決し閉会した。

市職員の不祥事で市長の給与十分の一、 一ヶ月間の減給処分案を提案、可決となる

市長は、最終本会議の冒頭で発言を求め、「市は九月二十六日、県市町村総合事務組合が行う交通災害共済の受付事務で、加入者の掛金の入金を怠り、公金を五ヶ月にわたり自宅に個人的に保管したとして、環境防災課課長補佐を停職六ヶ月の懲戒処分とした。又、監督責任を問い、上

司や関係職員計七名を減給処分などにした。」との報告があった。そして市長自らも、市の最高権限者としての監督責任を問うとして特別職給与条例改正法案を追加提案した。内容は市長の給料を十分の一、一ヶ月間の減給とするもの。全会一致で可決された。

一般会計補正予算 - 第3号 -

歳出のおもなもの

(単位：千円)

| 事 項 | 補正予算額 |
|----------------------------|---------|
| 普通財産管理費(水沢口マンスリフト工事) | 9,461 |
| 生活バス路線対策費 | 321 |
| 街灯費 | 2,000 |
| 集落集会所建設補助金(黒沢・下村・刺巻) | 3,562 |
| 介護保険特別会計繰出金(清眺苑パネルヒーター修理費) | 5,833 |
| 目指せ"元気な担い手"農業夢プラン応援事業費 | 2,706 |
| 売れる米づくり推進対策費 | 2,300 |
| 自然ふれあい温泉館維持管理(アルパ除雪委託費) | 1,570 |
| 温泉事業会計補助金(水沢源泉引湯管工事費) | 98,000 |
| 冬期交通対策費(除雪費) | 134,000 |
| 田沢湖橋昇降階段補修費 | 6,000 |
| 防災行政無線補修費(樺山中継局) | 1,161 |
| 社会科副読本編集制作費 | 1,735 |
| 神代小学校改築検討委員会費 | 110 |
| 生徒派遣補助金 | 6,500 |
| 公共土木施設災害復旧事業(凍上災11路線) | 188,326 |



市立角館小学校新築工事(校舎)17億3,145万円で 瀧神・金谷・小松特定建設工事共同体と 請負契約締結を可決

工期は平成20年2月29日まで

角館統合小学校建設事業は 5ヶ年事業(平成17~21年度)

計画総事業費は23億385万円

(単位:千円)

| 事 項 | 補正予算額 |
|--------------------------|-----------|
| 工事設計作成委託料(17年度)〔執行済〕 | 27,300 |
| 本体(校舎・体育館)工事費(18年度)〔契約済〕 | 1,731,450 |
| 工事管理監督業務委託料(18~21年度) | 19,132 |
| 備品購入費(19年度) | 130,184 |
| 解体・外構工事実施設計委託料 | 14,073 |
| 解体工事費(20年度) | 142,113 |
| 外構工事費(20~21年度) | 233,774 |
| 事務費(18~21年度) | 5,828 |
| 合計(17~21年度) | 2,303,854 |

質問

報道によると角館小学校新築工事の落札JVの構成の瀧神巧業が東北整備局より指名停止されたとの事。県はどう対応しているのか、市はどう対応するのか。

答弁

市では独自に瀧神巧業より事情聴取した。電子入札による提出書類の「様式」をアキモク鉄工より送って頂いたとの事で、提出書類内容のやりとりでなかった。東北整備局では電子入札であった事から公平性を図る観点から指名停止措置が取られたが、談合とか違法な行為ではなかった事から行政処分ではなく

賛成

新聞報道で「指名停止」という事が出ましたので、仙

討論

北市民はそういう認識の中にあると思う。この事については市民にしっかりと説明責任を果たしていただく事を要望し賛成する。

※この議案は起立採決で行われ、その結果、全員が賛成の起立。全会一致で可決された。

一般質問



角館統合小学校建築工事について

汚泥再生処理施設の発注方法について

小林 幸悦

角館統合小学校建設工事について

質問

仙北市になり初めての大型物件である角館統合小学校建築を、大手ゼネコンの指名を外して、旧大曲、仙北郡内の業者に絞って指名したのは、評価できる。しかし、当初の説明では七月か八月には着工の予定であったと思う。現状からして十月でなければ工事にかかれない状況である。この工程からいけば真冬に躯体のコンクリート工事が施工される事になる。一、二月の工事を中止し、工期を延長しても最終工期には無理が生じないと思う。完成度を高めるためにも真冬の工事を中止し今年度施工分の工期延長はできないか。

市長 今日（九月十三日）入札が行われたそうだが、入札結果はどうであったか。

市長 冬期間の工事は、さけられないと思う。落札業者と品質管理、現場管理について十分話し合いをしながら工事を進めていきたい。

本日、九時より入札を行った。その結果は、瀧神工業、金谷工業、小松建設の三者で構成する地元JVが、十六億四千九百万円で落札した。

汚泥再生処理施設建設工事について

質問

基本設計の最優秀案が決まり、八月二十三日付で「日本技術開発（株）」と基本設計の契約締結したそうだが、十九年度からの、この工事は、実施設計、施工一括方式で発注するのか、できれば特殊技術、専門技術を要する処理プラント部分を別として、躯体部分、建物については地元業者でも対応できると思う。

市長 躯体部分を分離発注する事はできないか。

市長 化学プラントであり、特殊な装置が必要とされる汚泥再生処理センターは環境省の指導もあり、設計、施工一括方式で発注したいと考えている。受注メーカーに対して、できるだけ地元業者の採用を要望して雇用の拡大につながるよう努める。

今後の発注方法について

質問 角館統合小学校の工事は、建築の一括発注であったが、今後、発注方法を建築工事、土木工事、電気工事、設備工事などに分けた分離方式の考えはないか。また、旧二ツ井町で行った総合体育館

建設工事では、CM（コンストラクション・マネジメント）方式で工事内容を二十二行程に分離発注して二十五パーセントのコスト縮減ができたそうである。

今後の発注方法について、CM方式も含めて、市長の考えを伺いたい。

地元企業の育成を図るためにも入札に参加できる機会を与えるような方策を期待する。

市長 基本的に一括発注方式で行きたいと考えている。大きな理由としては、

瑕疵責任の問題があり、トータル経費を考えた場合、責任の所在がはつきりする一括発注方式が良いと思う。CM方式については勉強不足でありこれから調査、研究していきたい。

営繕課を設置しては

質問 営繕課が置かれれば、市有施設の新築、増改築、

修繕にかかる調査、計画、設計、管理業務などが主な業務になる。各工事に關する設計管理等はもちろん、各課の施設の維持管理の一本化、空き施設の再活用のための調査など営繕にかかわる業務が大幅に増えてくると思われる。施

設の適切な維持管理をし、計画的に整備をしていくことが大事である。営繕課の設置について市長の考えは、

市長 今後検討していくが、業務量によって必要かどうか判断したい。

岩瀬・北野線について

質問 この道路の中間である横町く小館間が手付かずである。この間が開通してこそ利便性が発揮されると思う。

市長 今後、この間の工事をどうするのか。

市長 一番むずかしい工区工区完了後、地元住民と話し合いをして調査、事業化にむけて進めていきたいと考えている。



新築工事が始まった角館統合小学校

一般質問



行財政改革推進について

神代小学校改築問題について

安藤 武

行財政改革推進について

質問 合併により、多様な地域資源が加わり、広域的な行政運営で、効率化が図られるとして合併したのであるが、実質公債比率が十九・

一％と大変厳しい内容である。又借金を返済する人口、少子化が急激に加速してきている。職員の不補充は将来的に住民サービスの低下をきたす。問題を先送りして、子どもや孫達の世代に大きな負担を残すことだけは絶対避けなければならぬ。市長はこの財政構造の硬直化が進む中、財政運営をどう進めるのか、又住民サービスはどうなるのか。

市長 合併による期待は高いということを感じている。課題を抱えた三町村が合併しただけでは解決するわけではない。財源を生み出すために必要なまで削るといふことではなくて、いかに目標とした職員数で必要なサービスを行っていくかということを進めなければならぬ。補助金についても今まであったものがなくなるということでは皆さんの抵抗も多いかと思うが、自立のための支援として三年位を目途に補助

支援を行い、実力をつけるための行政支援を積極的に行っていく。又市民との対話する機会を多くすることについては、今後共、意見交換の場を作っていく。

神代地区の課題について

質問 神代小学校改築問題で、そのスケジュールと全面改築を考えているのか。

また、検討委員会の経費として計上されている。十分意見を尊重すべきだ。

教育長

神代小学校の改築問題については、これまでの耐震度結果を踏まえて、公立学校施設整備事業計画を提出し、国、県との協議を開始しているところである。大まかなスケジュールとしては十九年度、地盤調査、基本設計、実施設計を行い、二十年度より二十一年までの間に工事の実施を考えている。

質問

上下水道の普及は急務であるが、水源地を含め農集排・合併浄化槽の対応地域の線引きはいつ出来るのか。

市長

旧田沢湖町に於いても神代地区の上下水道は水源を色々な形で模索してきた事は私も聞いている。現在市としては、神代地区水源は角

館の上水より引水した方がベストでないか考えているところである。課題は、ろ過機の能力の問題、角館地域の未整備箇所の取扱いについてを解決しながら推進していく。農業集落排水事業については、現在田沢地域を実施しているので平成二十一年度完成し終わり次第、森の腰荒町地区の事業に着手する予定である。又それ以外の地区については、市町村設置型の浄化層で対応していく。



地震を想定した避難訓練中の生徒たち。神代小学校

角館バイパスについて

質問 予定通り進まない原因は何か。又、全線開通の見通しはいつか。

市長

全線改良延長六・一キロメートルで、内二・六

キロメートルが平成十九年度に供用開始されると聞いている。残りの三・五キロメートルについては国交省では今後十年間の道路予算に、角館バイパスは入っていると聞いているので今後早い事業完成めざし要望を続けていく。



全線開通が急がれる角館バイパス

損害補償請求事件について

質問 市民の納得が得られる方向で決着が付くのか。

市長

仙北市が旧田沢湖町から引き継いでいる問題であるが、第三回口頭弁論の際に、裁判長から和解の方向で考えるようにという話があった。ただし、遅延損害金の支払いを否決した旧田沢湖町議会の判断や市民感情といった問題もあり、そうした意見も聞きながら対応を検討していきたい。

一般質問



企業誘致について 森林整備について

澤田信男

企業誘致について

質問 中央では企業収益が良くなつたと言われるが、市やその周辺では波及効果どころかますます悪化してきている。働く場所の確保、企業誘致の促進が喫緊の課題だ。

市が総力でこれに当たり、早急にプロジェクトチームを立ち上げるべきと思うがどう取り組むか。

市長 早期にプロジェクトチームを組む。様々な面から有効求人倍率を高めるよう、行政としても取り組む。企業誘致については、各地区の東京ふるさと会にも強くお願いする。又、十一月に東京で立地セミナーが行われるが、これにも参加し、市に企業を持ってくるよう努力する。

質問 プロジェクトチームを組む準備をしているというが、いつ、どの程度のメンバーで立ち上げるのか。

市長 企画政策課で具体的な検討に入っており、早急にスタートできるようにしたい。

森林整備について

質問 ① 昨年の十七年豪雪により、杉の倒木被害が甚

大であった。このまま放置することにより山地崩壊などの二次被害が発生する可能性がある。どのように指導、誘導するのか。

② 角館町菌田部落と分収林契約している林地は、植栽後三十年を越える事になる。林齢により補助金がなくなり、間伐が出来なくなるのか。適性な間伐が行われなかった為、昨年の雪害は甚大であった。今後の管理について伺う。

市長 ① 市有林については、補助事業導入により、計画的に森林整備を実施し、民有林については、森林組合・林業事業者と連携しながら事業の拡大に努め、早期に被害林の復旧を推進して行く。

② 地形、生育状況を勘案しながら、緊急間伐団地化とそれに伴う事業を進めて行く。更に、民有林・私有林については、森林組合・林業事業者と連携をとり、適正な森林管理をして行く。



森林整備をいそげ

シックススクールについて

質問 ① ホルムアルデヒドを全く放散しない建設材料、自然植物塗料が仙北市角館町で製造販売されている。より安全な教室環境を提供する為にもこれから予定されている学校建設に使用すべきと思うがどうか。

② 文部科学省では、幼稚園、小学校等のホルムアルデヒドの定期検査を、原則年一回夏に行うよう定めているが、市内の教育施設の検査結果はどうか。

③ 新築保育園が開園されているが、これらの施設ではどうなっているか。

教育

① 落札された業者と協議をしながら使用可能であれば使用していく。

② 市では新築時に検査を実施している。検査の結果、シックハウスの原因物質は検出されなかった。

③ 施設の状態を確認しながら必要な場合は、年次計画を組み実施して行く。

教育について

質問 ① 総合的な学力向上の市の教育行政の大きな柱だ。どのように取り組んでいるのか伺う。② 全国学力テストについて、市の教育水準を把握し、その結果を施策に反映させる為にも結果を公表すべきと思うが教育長の考えを伺う。

教長 ① 各学校・学年・学級・生徒個々の状況に応じた対策を工夫して行く。そういう視点を持って取り組んでいる。

② 結果の公表はしない。ただ市全体の傾向、実体は公表すべきと思う。各学校の状況は各学校に内容を示す。

一般質問



今年の米価をどう考えるか

田沢湖病院をどうする

平岡 均

今年の米価をどう考えるか

質問 農家の実質手取り額は最低の水準である。

こういう米価で市内経済、市民経済はどうなるのか、農家経営は立ち行くのか、市経済に与える影響は計り知れないものがあると思うが。

市長 農家が農業生産をし元気を出す、それが地域の活性化につながるということはこの地域にとっては特にその状況は顕著である。

高い価格で買ってもらえれば良いという思いは私も一緒である。農家にも高く買ってもらえる米作り、農産物作りを力を注いで頂きたい。

その為の特徴のある農業に行政としても支援を続けなければいけないと思っている。

転作をどうする

質問 「品目横断的経営安定対策」十九年度から始まる。こういう米価、こういう

状況でも転作を続けるのか、又学校の現場では転作をどう教えているか。

市長 生産調整と価格は切っても切れない関係にあると思う。価格維持する為には国なり、業者なりの流通にのったなかで適正な量を適正な

価格でやっていかなければいけないと思う。

質問 農業の学習については小学校四年生の地域の学習で米の値段ということ、米を作らず別の物を作るという話、中学一年生、三年生の授業では農地、農業、特産、農業のおかれてきた歴史、食料の自給等学習する機会がある。

田沢湖病院をどうする
質問 「全日本民主医療機関連合」俗に民医連というが、医師確保という観点からこの民医連と接触の意志はあるのか、全国レベルなのでかなり可能性は高いと私は思う。もしあるとすれば私も一生懸命頑張りたいと思う。

市長 地方については医師不足である、その中でも田沢湖病院の医師不足で非常に苦慮し難儀をしている。市としては藁にもすがる想いで医師探しをしているので可能性のある所がございましたらお力を貸して頂きたい。

へき地保育所あと地の再利用について

質問 旧大曲では民間の団体が学童保育としてそういう建物を使っている。旧田沢

湖町内でも一部ボランティア的な意志でやりたい動きがあるがそういう準備は出来ないか。

市長 市としてはそういう空き施設を地元の方に有効に使っていただく為に払い下げという事で進めて来た。その地域と地元の方が有効に使えるような形で相談をしていきたいと思う。

神代小学校をどうする

質問 防災訓練やっていますか、グラツと来ますよ。また教育委員長が六月定例会でスピードアップとあったがどうアップしたのか、県の教育委員会の資料に小中併設の実践「小中一貫構想」も視野に入れてとあるが、私は小学校をどうするかという問題は大曲に神代小学校だけの問題で

はなく地域を、歴史をどう見るか、文化をどうするか、意味の深いものをもっていると思うが。

教員 防災訓練は地震、火災、不審者の三つに分けて行っている。建設のスピードアップについては計画に二十年度着工と明記でき、この後は二十年度に確実に着工できるように準備することとされている。能代の併設校は回りからも遠いことから出た知恵で神代はフィールドが広く他との関連をもちやすい。



神代小学校の子どもたちの舞い

一般質問



定住促進対策について

行政推進の手法と住民参加について

戸沢 清

定住促進対策を急げ

質問 定住促進対策について。

人口の確保には市の特色を活かし、第一次産業に付加価値をつけて、観光との連携を保ち、第三次産業による雇用の拡大を図ることが必要であり、また、移住希望者の受け入れ等を推進出来る要素を備えている。

具体的な取り組みはどうか。

市長 市の三次産業就業人口はまだ低い。

地の利を生かした対策を考えなければならぬ。

第三次産業のパーセンテージを上げることだ。

団塊の世代に観光に来ていただくとか、保養地をもってもらうとか、いずれは定住していただく様な方策を示していかねばならない。

行政推進の手法と住民参加について

質問 合併により、住民が行

政との疎遠感をもっている。従来からの手法を変える必要があるのではないか。

市長 産・官・学共同の方向で進めるべきだと思う。他から移住した人達の力を

もつと活用させてもらうべきだ。

県行政との政策的な連携について

質問 市の立地条件や様々な要素から、県の発展と大きく関わって来る。常に綿密な形の中で政策を推進すべきと思う現状はどうか。

市長 地域振興局と相談してやっている。

職員は一名派遣している。市には県の施設も多くあるので大いに活かしてやっていきたい。

助役 本市は、県ナンバーワンの観光資源があり、農業も素晴らしい。

振興局との連絡をますます密にしてやっていく。

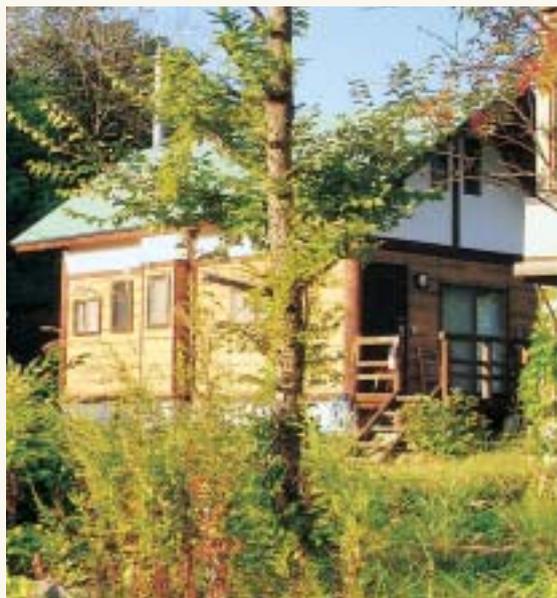
教育力の向上について

質問 地域の風土や文化を取り入れた個性ある教育が必要だ。学校や、社会教育の充実のために、合併を機会に新たな改善が必要と思うが、考え方と取り組みについて。

市長 市全体の教育、文化、自然、植物等、文化庁の力も借りて進めている。市の教育を考える会と共に活動を強めていきたい。



交流文化を教育にと歴史案内をする小学生（角館西小）



首都圏方向からの移住者住宅（高野）

一般質問



市立田沢湖病院救急指定再開に向けて医師確保を急々に温泉事業並びに今後の開発について

田口 喜義



市立大森病院、秋田大学などから応援を得て患者に対応している田沢湖病院

田沢湖病院救急指定取り下げについて

質問 七月より常勤医が二名になったことから、九月一日より救急指定を取り下げましたが、救急車の出勤回数は年々増加し平成二年の救急指定を受けた当時より二・二倍になっている。

また観光客の救急業務も増えている中であって「誰もが安心して暮らせるまちづくり」。「観光産業を活かしたまちづくり」を標榜する仙北市として、一日も早い救急指定

再開に向けての対応と医師の確保についてどのような対策を講じているのか伺いたい。

市長 救急業務規定で、「救急医療について相当の知識と経験を有する医師が、常時診療に従事していること」とあり、このことをクリア出来なかったことが取り下げの原因である。

市民の安全、安心の生活のためにも取り下げるべきではないことは承知している。救急車は広域消防の配置であり、今まで通りだが搬送先に時間がかかることから出勤態勢について、広域消防ではきめ細かい計画を練っている

と聞いている。医師確保については、全力を上げて取り組んでいる。医療連携も大曲、仙北の医師会を通じてお願いしている。

温泉事業並びに今後の開発について

質問 温泉条例改正で今までの権利金が三一五万円から二一〇万に、また譲渡の場合は新たに権利金が発生したものが現状の十％、二十一万円に改める改正の中において、更に条件整備をし、別荘

やペンション経営者などに、今こそ都会人の憧れや夢を

現させるための権利金を一〇〇万円程度とし、供給使用をメーター制にするなど経営者を呼び起こす高原都市構想を打ち出しているのか。

また一億六千万円の入湯税については、目的に添って鉱泉源の保護管理や排湯等環境衛生整備の用途は勿論だが、税収アップを計る上でも、観光客の誘致対策として、更にイベントや宣伝費にあてるべきと思うが考えを伺いたい。

市長 今回の条例改正案は料金収入が、ここ数年で八百万円の減入になっているので安定した経営を計るためのもので、もっと多くの方に利用していただきたい。

更に権利金を下げることに、改正案を出したばかりなので、その考えはない。

入湯税は地方税法に定められている目的税である。各用途に使っているが、使途の総額は入湯税を遥かに上回る予算を温泉事業に投入しているので理解してほしい。

教育施設の現状と今後のあり方について

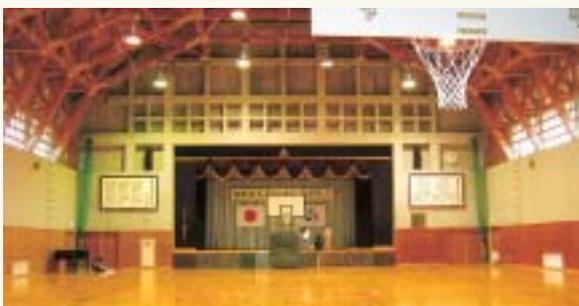
質問 旧町村の教育施設は

年々老朽化が進んでいる。特に昭和四三年築の生保内総合体育館はその代表的な

ものであり一日も早い改築が望まれるが、そのための耐力調査の現状はどのようなものになっているのか。

教員長 学校施設の耐力度調査は随時進めているが、このあと十九年度に生保内小と神代中を行えば、学校関係が終わる。その外の施設はその後の事業になる。

跡地利用では上桧木内小は進んでいないが、角館東小は生涯学習施設の希望がある。西長野小の体育館は、床を取って土の上での活動をした



住民の要望により土間になるか。西長野小体育館

一般質問



国民健康保険事業について 子育て、就学支援について

高久昭二

国民健康保険事業

質問 小泉内閣の悪政のもとで、特に高齢者や障害者を含む生活弱者の方々はますます生活しにくい社会になってきた。

今回の国民健康保険、税率統一化に伴う大幅な引き上げや、今年度の県市民税賦課等合わせ、多くの市民から苦情、相談等が寄せられたと思う。

六月市議会でも取り上げたが、市民生活が苦しい状況に追い込まれているときに、法律で認められているとはいえ、機械的に差し押さえ予告通知書的手段に訴えるのではなく、地域毎に積極的な納税相談に乗り、市民の立場に立った納税業務を進めるべきではないか。

市長 合併後初の、統一した国保税として六月に決めた。

差し押さえについては、機械的のと言う事ではなく、手順を踏んで納税しやすい相談に応じてきた結果として督促そして最終的には差し押さえせざるを得ない場合通知を出している。

質問 仙北市全体で国保税滞納者に対する、国指導のペナルティとして短期保険証

八百六十六世帯、資格証明書は八十四世帯に発行されている。

特に資格証明書は医療機関窓口で全額自費払いとなるため受診を控え、病気を悪化させる等、大きな社会問題になっている。

これらを発行する際どのような手順及び判断基準に基づいて業務をしているのか。

市長 滞納者に対する資格証明書等の発行については、いろいろな、とるべき処置を行った上で、やむをえない場合の対応である。

子育て、就学支援

質問 仙北市では県の「すこやか子育て事業」にのっとり就学前児童の医療費助成制度を実施している。

大仙市では小学校六年生まで医療費完全無料化を実施してきたが合併二年目で一部所得制限が実施された。本市の同事業に対する考えを伺う。

市長 仙北市としては県の就学前児童に対する所得制限付の支援策に対して、ご存じの通り所得制限なしで支援策を講じている。

質問 仙北市の不登校生徒数は十三名いると聞いています。子供の将来にとっても、

避けて通れない教育上の重要な問題である。教育委員会としてどのような対策を講じているのか。

市長 学年の生徒指導対応チームを作って、その子供の指導のあり方について検討を経て呼びかけをし、かつ、保護者との連携をとりながら進めている。さらには、教育カウンセラーとも相談し、個別の面接や対応指導している。

岩瀬北野線

質問 現在工事が進められている小館、落合地区街路は旧角館町議会に示されたルートからかなり変更されている。

落合野球場の道路として活用したいとの説明であったが実質百五十メートルほど離れており国体競技に活用するとすれば新たなアクセス道路が必要になる。いつの時点で今このルートに変更されたのか。

教長 都市計画決定後、工区を定めて区間ごとに進めてきた。

現在の工区がいつの時点の説明であるか分からないが、いずれにしても、区間毎の認可をいただき着工し、その際当然のことながら議会にも報告し工事を進めてきた。

議会に報告なしでルート変更したとは思っていない。



岩瀬北野線（小館地区）

一般質問



LD、AD・HDの対策について 幼稚園、保育園と一体の取り組みについて

藤原 万正

地域座談会について

質問 行財政改革に迫られる地方自治体、限られた財源の中でどう住民の要望に添えて行くのか、その手腕が問われている。又、住民は従来の行政依存型から脱却し、参加しながら、共に地域を築いて行くという、自治の原点に帰り、実践する事が求められている。そう言った意味からも直接対話型行政が大事であり、地域座談会の開催は時宜を得たものと言える。開催の状況とその結果と、今後の課題を伺いたい。

市長 地域座談会は七月末から仙北市内十ヶ所で開催した。参加市民は一会場五名から三十七名、総参加者は一七六名であった。各会場で要望や意見、様々いただいたが、地域固有の問題についての意見が多かった。報酬等についての意見は四会場であった。参加者が一会場平均十七、八名の事から、もっと多くの市民から参加して頂けるよう、会場の選び方、開催時間、時期等と共に事前に市民への周知の仕方など、考慮する必要があると思っている。

LD(学習障害)、AD・HD(注意欠陥、多動性障害)の対策について

質問

これまでの特殊教育においては障害の種類に合わせた、きめ細やかな教育が行われて来たが、今、通常の学級の児童生徒で、知的遅れは無いが学習上特別な配慮が必要な子供達が相当数いる事で問題化している。当市のLD、AD・HD児童生徒の現状とその対策についてを伺いたい。

市長 LDやAD・HDについては一元的でなく、障害が重複して発症している場合が多い。こうした障害等で特別な支援を要する児童に対しては市内の七つの小学校に十名の生活サポート職員を配置、中学校にはスクールカウンセラー事業で五名の臨床心理師に委嘱し、学校における教育相談の充実を図っている所である。今年度は更に角館西小に教育研究室を新設、AD児童を含めて通級による指導と各学校への助言や指導を行っており、今後も指導体制を強化していきたい。

幼稚園・保育園と一体の取り組みについて

質問 文部科学省と厚生労働省では保育園と幼稚園の両方の機能を備える「認定子ども園」を十月が本格的実施に向けてスタートする方針で

ある。

当市の考え方、取り組みについて伺いたい。

市長 認定子ども園は国では十月スタートだが、県段階で今、これに係る条例化の作業を進めている状況である。仙北市の保育施設の内、神代の子ども園、生保内のだしの子園は認定子供園に近い位置にあると思うし、西木のこにこ保育園も又、これに近い位置にある。これまで幼保連携を進めて来た経緯と認定子ども園のメリットを見つめその観点からすると、課題は多いが、認定子ども園への移項を進めたいという考えである所である。

質問 AED自動対外式除細動器は平成十六年七月から、医師や救急救命士に限らず誰もが使用出来るようになる所である。

り、心臓突然死に対する救命の道が広がった。市のAEDの設置現状と今後の対応そして講習の開催について伺いたい。

市長 AED器は市内では玉川温泉とカヌー協会が保有、救急車三台にも配備している。庁舎の避難訓練では消防署のAEDで職員が使用の講習を行った。今後は公的機関への配備や市民への講習も検討して行きたい。

質問 子供が学校の帰りに犯罪の被害に遭うケースが相次いでいて、小学生を持つ親達の不安は大変大きなものがある。そんな中で親たちが頼りにしているのが放課後保育である。所管の厚労省と文科省がこれまでは各個人で行って来たが、来年度からは両者が連携して「放課後子どもプラン」事業を始める事となった。当市の放課後保育への考え方についてを伺いたい。

市長 学童保育は放課後自働クラブとして空教室を利用して、市内三小学校で行っている。西明寺小学校でも検討を進めている所である。来年度からの放課後子どもプラン事業では全ての小学校を対象とし推進を図りたい。



庁舎避難訓練でのAED講習

一般質問



新しい農政の展開に対応出来るのか

早期に新庁舎を建てるべきだ

真崎 寿浩



地域づくりは人づくり

地域づくりの基本は何か

市長 仙北市の将来像の「観光産業を活かした北東北の交流拠点都市」をめざすためには、安全で安心して暮らせる住みよい地域づくりと、住民の意識改革が不可欠である。

質問 特色ある地域づくりに向けての市長の考え方について伺いたい。

市長 まず充実を図るべき地域医療のあり方を明示する必要があり、と思うがどうか。

市長

この地域は観光客の安心感からも救急態勢は必要であり、これを解決するには医師の充足を達成して、早期に救急対応出来る病院にすることである。

田沢診療所は週一回の診察のため、必要ある患者を田沢湖病院に搬送する方法も検討していきたい。

質問

特色ある農政の展開を望むものだが十九年度対策はどうなっているのか。

市長 農業は仙北市の基幹産業であったし、またあり続けていると思う。

旧大曲仙北での施策、支援での差があることは認識している。仙北市の農産物に実力をつける必要があり、農業も外の手助けなしで自立して行ける産業になってほしい。

補助支援のあり方としては立ちあがりの部分での助成であるべきで、研修などをして、お金ばかりでなく人の交流を計りながら自立出来る農業を進めていきたい。

質問

地域づくりは人づくりであり教育環境は、その根元である。仙北市の教育をどう進めようとしているのか。

教育長

仙北市の教育を考えたところである。

り、教育の大きな変化の時代に入ったと認識している。

育児支援、幼保、小、中の連携と高校のあり方を語り合うもので、特に二校ある高校の問題は仙北市だけの問題ではないので県の考え方を考えるような意見を集約して行きたい。

身近な行政とは何か

質問

職員がやる気を引き出す環境を整える体制づくりを急がなければならない。

旧三町村の職員同士の溝があるのではないかと思う場面が多くある。合併した以上旧町村での考え方を今なお引きずっている事は職員に対する教育の問題ではないのか。

職員同士の風通しが良くなければ身近な行政にはならない。今の分庁舎方式の不便の解消は、新庁舎をあるべき場所に建てるべきで、そのことが住民にプラスであると思うがどうか。

市長

職員の業務の進め方については合併したからと言

われる場面もあるかも知れない。

旧三町村のやり方、考え方を統一化するには多少時間がかかる。

職員のやる気は、日頃のコミュニケーションが大事であり職員研修にも取り組み、能力アップに努めたい。

新庁舎建設の件は、以前から申し上げて来た。合併当時はかなり後の計画になっていたが、これを前倒しして早期に取り組みたい。

今後、三年間の実施計画の中でも新庁舎の調査予算を盛り込んでいく。



仙北市農業の方向を見い出せるか、農業対策

一般質問



内陸線存続に向けての市の取り組みの状況について

仙北市消防団の欠員状況、団員確保について

浅利 則夫

質問 内陸線再生支援協議会で、平成二十二年度を目

標に乗車人員を八十二万七千人に設定し、計上損失額を再生計画を示した。この目標達成は非常に高いハードルではあるが、絶対到達できないハードルではない。内陸線存続に向けての市の取り組み状況と今後の施策について伺う。

市長 存続の方向で最大の努力をする。取り組み状況については、五月に庁舎内に秋田内陸線再生チームを構成し、内陸線存続に向けた諸問題や沿線の状況等について調査・検討している。又、チラシ・広報によるPRもしている。民間では、秋田内陸縦貫鉄道を守る会が設立され、行政としても支援し、共にがんばっていききたい。

質問 角館・田沢湖地区の住民にとっては今まで利用度が低いことから、存続への思いに温度差があるように感じる。守る会も含めながら、地域住民と再生チームが共にあって運動して行くべきと思うがどうか。

市長 守る会、地域住民、再生チームと連携をとってやっていく。存続の思いにある温度差もなくすよう努力し

ていく。

質問 消防団の活動を十二分に行き、十分な人員で危険な活動に取り組めるようにして頂きたい。現在の欠員状況並びに団員確保の施策について伺う。又、市職員等の公務員の消防団入団要件について伺う。

市長 定員七百六十七名に対して百二十一名の欠員が生じている。平成二十年三月以降、仙北市消防団として一本化し、適切な人員配置の見直しを考えていく。公務員の消防団への加入については、消防庁からも通知は受けており、有効な団員確保策である。市職員の本務と消防団としての活動を整理して行かなければいけない。

質問 平成二十年の見直しの時期まで、欠員状況をこのままにしておくのか。新たに何か考えているのか伺う。

市長 欠員の補充については努力したい。二十年三月まで定員まで持っていけるかは難しい。

質問 高齢者への税負担が倍増を取り入れるべきではなかったかと思う。この増税により、多くの苦情、問い合わせ

があったと思う。高齢者に対する具体的な対応、措置が必要と思うがどうか。

市長 所得によっての軽減措置を考えながらやってきている。三年に渡っての緩和措置を設けながら、総合的で公平な税負担をお願いする。

質問 介護保険要介護認定者への障害者控除対象者認定証の発行について、この権限は市長にあるがどうか。

市長 申請を受けた場合に医師の診断、職員が個別に確認し認定することになっていくので、それに従って取り扱っていく。

質問 人間の受診機関が市になってから限られてきた。受診医療機関の制限のない補助体制にして頂きたいがどうか。

市長 市の財政から市民に対して健康維持の為に

支援をして行く、税を使って行く観点から市内にある二つの市立病院と組合病院に補助していく。

質問 市長等の特別職と市議会議員の給与、報酬等の件について、再度引き下げについての市長の所見を伺う。

市長 仙北市として初めて制定した給与、報酬である。引き下げる考えは、現在のところない。



住民の足として必要な内陸線



常任委員会だより



総務常任委員会に付託された案件は補正予算案二件、その他九件の計十一件である。

仙北市一般会計補正予算

問 市は観光で誘客をしながら経済的に伸びていく方向性を目指しているが、雪崩事故以後観光面でかなり影響を受けていると聞くがどのような対策をしているのか。

答 冬期観光について危険だ、と不評で観光客が減らないよう、市、県、林野庁とで協議会をつくり対応している。市としては、ソフト面で観光協会とタイアップして安全だとPRして誘客を図りたいと思っている。

問 集落集会所建設事業費の補助金の額は、人数、面積によって違いがあるのか、また上限はいくらか。

答 面積等の条件はない。新築の場合は補助率五分の一で、上限百二十万円、増築は二分の一で上限は六十万円である。

問 水沢ロマンスリフトの修理代が計上されているのに関連して、田沢湖高原リフトとの委託契約の条項の中に、修理費の金額の上限はあるのか。これから市の方で負担しなければならぬ状況下になる可能性が出てくるので見直しを考えているか。

答 賃貸借契約を結んでいるが、その中には修理費の金額のボーダーラインは明記していない。市で所有している設備については、今後は早急に県の方に譲渡したいと考えている。

問 内陸線の問題、乗車率をアップする方法を考えていくとすることであったが、かなり厳しい状態と思うが。

答 ハードルは極めて高いと思っている。生活の足として、観光路線として必要性等、随時議論していかねければならない。目標を設定して出来る限り精一杯取り組んで再生計画にむけてがんばりたいと思っている。

仙北市生保内財産区特別会計補正予算

問 財産貸付収入（二、三六千円の減）に関連して、今季営業を取りやめるアツスルスキー場に対して、市としての対応は。

答 観光面での影響のみならず各方面（雇用等）に影響を及ぼすので、将来的な見通しについて方向付けをしていきたい。今期の営業に関しては、市としてどうすべきか。早急に判断したい。

辺地に係る公的施設の総合整備計画の変更について

問 辺地債の制度は続くものか。また、辺地計画なされているのは何路線か。

答 辺地債は時限立法ではないので、いつまでということはない。角館地区と田沢湖地区で十箇所となっている。

仙北市基本構想制定

問 基本構想において、仙北市の全体的な将来像（グラウンドデザイン）を示すことは出来ないか。

答 実現性のある将来ビジョンを出してはいるが、将来

のまちづくりについて子供達から募集するなどし、夢を語れるような場を作って行きたい。

その他意見・要望

冬期観光の衰退は、仙北市の基本構想に対しその影響は多大であるので、対応はしっかりとやるべきであるとの意見が出された。

基本構想制定について、PFI事業など取り入れ夢が持てる活力に満ちた地域づくりに取り組むような要望が出された。

付託案件の採決

議案四件、陳情二件は原案通り全会一致で可と決定した陳情一件を不採択、四件を継続審査・審議とした。



休業されるアツスルスキー場

教育民生 常任委員会

出産育児一時金について

「今まで、病院に出産費を全額支払ってから、申請して支給されるものだったが、これからは直接病院に支払いが可能なるのか。また、高額医療制度も同じように直接、支払いできないか。」との問いに、「希望者は出産予定の1ヶ月前から申請でき、三十五万円を上限に直接医療期間に支払いできる。また高額医療制度の場合は、非常に大きい金額になる事も予想され、出産一時金と違いリスクが高いと考えているが、これから検討したい。」

また、「角館総合病院の出産費の引き上げが八月から行われているが、出産育児一時金の改正と同時期に出来なかったのか。」今回の改正は、法の改正に合わせたものであ

る。他の自治体病院では、出産費の引き上げは四月からおこなわれていた所もある。料金改正をお願いした時点で、国の動向がハッキリしていなかった。」

乳児検診について

「学習障害等を早期に発見するため、五歳児検診を行うことは出来ないのか。」との間に、「保険課担当で行う検診は、三歳児検診までであるが、他の自治体のケースも参考に検討してみたい。」

障害者福祉について

「地域生活支援事業にいくつかの事業がまとめられているが、小規模作業所のさくらの会、にじの会等に対し市としてはこれからどのようなかわりを持っていくのか。」との問いに、「小規模作業所については、国体から行いたい事業について、要望が出されている。今までは、補助金として出していたが、新たに生活支援事業の中で行うことになる。また、NPOで実施したいとの要望も出されている。」

老人施設関係について

「これから老人が増え、清眺苑を含め施設の老朽化も進んで行く。民間移行等どんな方向で行くのか考えているのか。」との間に、「基本的には市で設置し、運営しているものは現状維持でいきたい。ただ将来的には市で直接管理するのか、指定管理者制度にするのか等、これから部内で検討していきたいが、一定期間は必要と考えている。」

神代小学校改築について

「神代小の検討委員会ほどんな内容で行っていくのか。一回目にはどういう意見があったのか。」との間に「早期改築を目指し、来年度基本設計を予定している。委員会では、準備会の段階でまとめた意見としては、体育館も含め出来るだけ早期に改築してもらいたいという要望だった。二十年、二十一年度で建設に取りかかりたい。PTA関係者等も含め建設に反映していきたい。」

統合小学校について

「落札業者の中に国交省から指名停止を受けた業者が入

っていたが、最終日の契約議決はそのままですのか。」との間に、「県では違法性があるかどうかの判断をこれから行う予定である。契約議決については、市長が提案するものである。また入札については、入札契約室で行っているので、県の判断を待つてそちらで判断するものと考えている。」

文化財保護について

「伝建群地内の看板について、強制撤去は難しいだろうが、今後の方針についてはどうか。また玉川堤の桜の管理についてはどうするのか。」との間に「看板の県については、保存計画見直しを委員会です話し合っているが、十九年度に方向性を決めて対応していきたい。しかし今はお願いしかできないので、今後とも関係者に積極的にお願いしたい。玉川堤の桜の件については、危険回避と家屋に迷惑をかけている

桜の木については、除去する場合もある。樹高の高いものは手入れをしやすいぐらいの高さにしたいと考えている。」

仙北市国民保険特別会計補正予算について

「全県一つで事業を行う場合のメリットはなにか。」との間に「急激に医療費が上がった場合、仙北市単独で支払えない場合が想定されるが不足分は交付金で入ってくるので支払いが可能になる。基金の取り崩しをしなくても安定した運営が出来るメリットがある。」



産業建設 常任委員会

本会議から当常任委員会に付託された案件は条例二件、補正予算七件、市道の廃止一件及び認定一件、陳情二件である。

農林水産業費（農業費）

問 目指せ「元気な担い手」農業夢プラン応援事業費補助金については六月定例会で市長より前向きな答弁があり安心してしたが、今回の補正では十二分の一の補助であり期待を裏切るものである。

答 この事業に対する大仙市、美郷町は十二分の二である。

仙北市がこのままでいいという考え方であれば農業施策に対して農家は批判的になる。他と同じ補助率にして、やる気を出させ、仙

北市の一次産業である農業の活性化を図るべきだ。

答 農家が農業に対してやる気をなくさないような補助の仕方を考えていく。残り十二分の一については十二月議会で対応したい。

農林水産業費（林業費）

問 新エネルギービジョン策定事業・バイオマス等未活用エネルギー事業について具体的な説明をしてほしい。

答 新エネルギービジョンとは仙北市に潜在的に存在するエネルギー量の調査をし、新エネルギー導入について基本的方針を策定するものである。

バイオマス等活用エネルギー事業は間伐材等を利用してガス化発電装置により電力等の供給を行う事業の可能性を調査するものである。

土木費（道路維持補修費）

問 流雪溝が車道に面した場所が開閉式流雪溝の蓋の上を車が通り騒音の苦情があるようだが、どのような対応をしているのか。

答 蓋の音については蓋その物が痛んできている物と構造上により音が大きくなっている物もある。隙間にゴム板を敷いたり、木材を入れ遊びを少なくするなど予算の範囲内で対応している。新しいタイプは防音ゴム付や開閉が楽なスプリング付などがあり、順次更新していきたい。

土木費（冬季交通対策費）

問 今年ももう少しで冬の季節を迎えるが、昨年度の豪雪による除雪で多くの苦情が寄せられた。今年の除雪に対する指揮命令系統をどうするのか。

答 豪雪地帯については業者が降雪の状況を確認して出勤している。以前には職員が夜間、降雪状況を判断して出勤の指示を出すことについて問題があるのかにかというように雪を見てく

れる人をお願いしていた。

答 昨年のような豪雪の場合その方たちの負担が大きいく、今年は職員もパトロールをして除雪出勤の指示を出すようにしたい。

問 豪雪中の事故対応はどのようにしているのか。

答 軽微な物損事故については委託業者の責任で対応することが必要であり、委託費の中に保険料を含めることで検討していきたい。

予期せぬ事故が発生する場合もあり、道路管理者としての責任も発生する。事故の内容により最終的に市が責任を持つもの、委託業者が対応するものについて統一していく。

商工費

（観光宣伝費）

問 仙北市首都圏PRセンター（仮称・仙北市東京屋敷）の設置場所を荒川区が候補地となっているようだが、なぜ荒川区なのか、出店した場合維持管理を「ど

うするのか、また、どのような物品販売を考えているのか。

答 PRセンターの場所については、荒川区に出店した場合補助を出すというところで検討しているが、まだ決まっていない。維持管理は商工会、物産協会等、品物を集められるところをお願いする。

客層は中高年層をターゲットにしたことから、農産物加工品である、お菓子・笹もち・昔懐かしいお菓子等考えている。当初は利益よりも信頼関係を重視していきたい。



めざせ元気な「担い手」

仙北市総合計画

観光産業を生かした 北東北の交流拠点都市をめざして

仙北市は九月定例議会に、今後十年間の「仙北市総合計画」の素案を示した。

議会は、仙北市の憲法ともいえる総合計画を精査するため、議会全員協議会を二日間開催し質疑した。

さらに、本会議でも質疑をして全会一致で議決された。これにより新市建設計画がスタートすることになる。

計画書は、序論、基本構想、基本計画、実施計画の四編に策定されている。

序論にある、計画策定の目的は、地域の均衡ある発展と住民福祉の向上を図るには、明確な将来ビジョンを示す必要がある、合併協議により策定された「新市建設計画」の理念を継承し、より発展的、具体的なまちづくりの指針として策定するものである。

計画の期間は平成十八年度を初年度とし、平成二十七年までの十年間とする。

実施計画は三年間の計画で、ローリング方式により毎年度見直しをする。と記されている。

本会議での質疑抜粋

問 総合計画の必要性、重要性は理解できるが、どう実

行し、目標に到達するのかわかる。実行には予算が伴うが、心配なのは財源の問題である。

六月定例会では、九月に総合計画とあわせて、行財政改革の基本方針となる行財政改革大綱を策定し、総合的な行政運営の指針を定めるとの答弁であった。

総合計画と行財政改革は切り離せないものと考えているかどうか。

答 行財政改革大綱については六月定例会で、基本計画と合わせて検討中であり一緒に示したい旨の答弁をしているが、結果として今回できなかった。

大綱策定の進捗状況は現在、市民の方々をメンバーとした行政改革懇談会を設置し一回会議を開き、見てもらっている。予定では近く第二回目の会議を開いて意見を集約し、九月中にま

とめた後に議会に説明したいと考えている。

問 「基本構想」の中に、職員定数の削減や事務事業の見直しにより経費の削減に努めるとある。

仙北市も具体的なものを示す時期であり、部内プロジェクトなり議会の特別委員会を設置するなどお互い切磋琢磨しながら将来の仙北市を考えていく体制が今こそ必要ではないのか。また、職員の削減は住民サービスの低下に繋がるのではないかと心配の声もあるが市長の考えを伺いたい。

答 総合計画の中で三つのプロジェクトを考えている。行政改革の重要な検討課題として具体的な役割分担をその中から抜き出し、議会にも特別委員会の設置等のお願ひもあると思うが、総合計画のフローの中で進めていきたい。

職員減、事務事業の見直しは、結果的に財源の捻出項目として、当然人件費の削減がある。しかし、それは財源を生み出す無理な削減でなく、住民サービスを低下させないという前提の下に進めていかなければならない。

合併効果として、三町村でやってきた業務を統一した組織としてやっていくことで削減の要

素は十分あると思う。

問 市民の情報を伝える、市民の声を聞くといったことが公開している仙北市ウェブサイトに情報は遅れていたり、ほとんど内容が無い。内容を充実させるには大変な作業だと思うが真剣にやってもらいたい。

答 行政の透明化にかかることはますます重要なことになると認識している。

他からも仙北市のホームページの内容が不十分だと指摘を受けている。今後、情報センター及び市の関係機関とも協議して充実に努めていく。

問 市民の声を反映させるためのパブリックコメント制度の導入については、計画段階で市民はもとより議会にも、素案のそのまた素案を示しながら議論して政策なり計画を作っていくべきだと思いがどうか。

答 意見をどの段階で聞くか、ある一定のまとまった段階で提案することが効率的であるとの考えであり、説明した段階で修正はしないとのスタンスではない。

議会の意見も聞きながら目的を達成したいと思っている。

平成17年9月20日
平成18年3月31日

- ・仙北市議会公営企業会計決算審査特別委員会
- ・市立田沢湖病院
- ・市立角館総合病院
- ・仙北市温泉事業
- ・仙北市水道事業

各会計決算認定



救急指定が急がれる田沢湖病院

地域の安全・安心に對して十分な配慮が必要であり、地域全体の診療体制確保の検討中である。現在は病院の自立を目標として、立て直しを図っていききたい。

市立田沢湖病院
当期純損益、千九百七十七万三千五百七円の損失。
未収入金は七月一日現在五百四十九万六千四百七十円。
不納欠損金は、三月三十一日現在で五十四万三千七百六

十円であり、理由は生活困窮者、所在不明、死亡等である。
問 医師不足の対応をどう考えているのか。
答 医師確保が第一と考えて努力している。合併後二つの市立病院の運営については、当初から検討課題であると認識していた。その検討時期が早まったと捕らえている。

平成十七年九月二十日の仙北市誕生から、平成十八年三月三十一日までの病院事業、温泉事業、水道事業の決算内容を審査するための、仙北市議会公営企業会計決算審査特別委員会が本会議で設置された。
なお、西木地区簡易水道は企業会計に入っていないため同委員会では審査はされない。特別委員は次の十一名。
委員長・田口喜義、副委員長・小田嶋忠、委員・田口寿宜、安藤武、浦山敏雄、小林幸悦、八柳良太郎、浅利則夫、佐藤宗善、藤原万正、田口勝次。

市立角館総合病院

当期純損益、二億八千六百二十万二千九百七十三円の利益。未収入金は七月一日現在千八百四十五万四千六百六十六円、不納欠損金は、三月三十一日現在で八十一万七千九百円。不納理由は田沢湖病院とほぼ同じ。

(委員会の意見)

市立田沢湖病院は医師不足が原因で経営不振に陥っており、このままでは病院事業の見直しも必要と考えるが、ま



老朽化が目立つ角館総合病院

ずは医師不足解消が第一である。加えて、市全体の医療体制を早急に整備する必要がある。当局としても、医師確保対策室の設置を含めた方向付けを早急に行うべきである。
そのために議会も協力し、実現に努力する必要がある。
市立角館総合病院の十七年度収支は、主に特別利益による増収が目立ち、経常収支比率などの数値を見ても収益性が上がったとはいえない。なお一層の経営努力を望む。
以上の意見を付して全会一致で認定とした。

仙北市温泉事業

当期純損益、二千三百五十七万七千三百七十円の利益。

未収金は八月一日現在六百三十三万六千四百八十五円。

不納欠損金は平成十三年度分一件、六万九千九百円です。在不明により時効となる。

問 温泉事業の概要と今後の計画について聞きたい。

答 温泉事業は昭和三十六年にカラ吹温泉にボーリングをし「駒草荘」に引湯したこと始まりで、それ以来、乳頭地区、高原地区、水沢地区への配湯を行ってきた。十七年度の延べ供給戸数七百四十一戸、延べ供給口数二千八十三



田沢湖高原のカラ吹源泉

口、延べ供給量五十七万五千トキロリットルとなつてい

る。温泉の造成量は昭和六十一年をピークに減少の傾向にあり、平成十六年四月から二号源泉が急激に減退傾向を示し、同年十一月に黒湯から引湯を行い、十五口の増量をした。

さらに、今回、水沢温泉から引湯を予定しており、これが実現すれば維持経費が高額な黒湯温泉の使用を中止することが出来、より安定した供給が可能になる。

委員会は全会一致で認定した。

仙北市水道事業

上水道事業、当期純損益、九百二十万五千六百四十五円の利益。

簡易水道事業、当期純損益、百十四万五千五百五十九円の利益。

未収金は八月三十一日現在上下水道合計で七百九十三万二千四百九十二円。

簡易水道で六百七十八万三千八百八十六円。

不納欠損金は平成十一年後上水・簡水、合計で三百八十二万八千三百二円。欠損処分理由は、生活困窮者、所在不明、ホテル・旅館業の倒産によるもの。

問 田沢湖上水・簡水合計で千三百七十万円を超える未収額になつているが、未収金の徴収計画はどうなつているのか。

答 未収金については、平成十一年前後から急激に増えている。平成十三年ごろから議会の指摘を受け解消に努めたが、思ったような成果が出なかつた。

合併を機に、新たな未収対策の要綱を作成し、今後は排水停止も含めた対応も検討したいと考えている。

問 神代地区の水道整備が遅れているがこれまで旧田沢湖



老朽管入れ替え工事

町ではどのような対応をしてきたのか。

答 平成二年ごろに旧田沢湖町の発展計画に上げられ、神代東部の調査が行われたが、水源の確保ができなかつた。

その後、農業用水を使った水の確保も検討したが、玉川の水を嫌う声があり中断した。

さらに、地下水も検討したが、強く汲み上げると濁るため断念した。現在、角館上水の利用を検討している。

(委員会の意見)

田沢湖上水の有収率の向上対策を行うこと。

神代地区の水道事業及び角館地区など、市全体の未整備地区を総合的な計画を作成し整備をするべきである。

健全な経営を維持するためにも、未収金の徴収には一層の努力を願う。

西木簡易水道事業は企業会計に入っていないが水道事業を全体的に見るためにも一本化した審査が出来ないか検討して欲しい。

以上の意見を付して全会一致で認定した。

早急な医師不足対策の実施に関する意見書

仙北市田沢湖病院は、7月末に内科医師が退職し、常勤医師が2名となり、平成2年から実施してきた救急外来を継続していくことが不可能となり、9月1日をもって救急指定の取り消し申請をしました。現在、後任の医師確保について秋田大学医学部をはじめ、県並びに関係機関、各大学等を訪問し派遣要請をお願いするなど努力を続けていますが、医師不足の現状は厳しく、いまだ確保できない状況であります。

当市では、全国的な傾向ではありますが、より深刻な高齢化が進んでいます。(65歳以上31.7%)。疾病構造も多様化しています。高齢者が健康で安心して生活できる医療、福祉が強く求められております。

また、仙北市は、観光産業を活かした北東北の交流拠点都市、交流人口1千万人を目指しており、その目的達成のためには、訪れて下さる観光客の皆さんが安全・安心して旅ができることが重要であります。それには田沢湖病院の医師の確保が急務であり、市内の角館総合病院と連携した、より安心な、きめ細やかな医療ネットワークの構築も必要に迫られています。

深刻な医師不足が県内の地域医療にさまざまな影を落としています。この原因は、平成16年4月から始まった新しい医師の臨床研修制度にあるといわれています。

しかし、その原因はどうあれ、このままでは地方の住民は満足な医療さえ受けることができなくなるのを目に見えています。地域医療が崩壊する前に一刻も早い対策を強く望むものです。

以上のとおり、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成18年9月27日

秋田県仙北市議会議長 佐藤峯夫

厚生労働大臣 様

秋田県知事 様

仙北市の責任ある対応を求める決議文

平成18年6月定例議会に提出された議案第138号「かくのたて特設馬術競技会場土木整備工事請負契約の締結」に係る審査にあたり、総務常任委員会の参与出席した国体事務局長の答弁に誤りがあったことが、8月11日の総務常任委員会協議会で判明した。

その概要は、工事請負額の2億8,098万円で、地元A級2業者(相馬組、斉藤組)JVが請け負ったものであり、この工事で施工されるのは、特殊マット敷設と排水溝や馬場の柵工事等の整備である。

誤った答弁とは、「特殊マット敷設工事費は112万円程度である」という説明である。設計書に単価5,100円とあるにもかかわらず、桁違いの51円と誤って説明し、馬場マット工事費総額112,506,000円を1,125,060円と答弁したのである。議会審議を左右するほどの誤った説明である。

6月議会最終日、総務常任委員長の報告は、「原案可決」という審議経過と結果を本会議に報告し、仙北市議会は全会一致でこの案件を決議した。

ところが8月11日の総務常任委員会協議会で、国体事務局担当者は誤りについて認めたのである。その後当局は職員に厳重注意等の対処をしながら、総務常任委員会で陳謝を繰り返した。

このたび議会が問題視しているのは、6月28日に設計関係者から誤りについて指摘を受けたにもかかわらず、議会に対し何ら説明もなかったことである。さらに説明がないといって放置していた上司の責任は大きいものがある。

判明した時点で訂正の説明があれば、市議会だよりに誤った記事は掲載されなかった。この件で議会は、市民に謝った情報を提供したことになった。

もう一点は当局の業務態勢の甘さである。特に今回の事業発注は2億円を上回る事業であり、その財源は県費とはいえ、仙北市が工事発注した事業である。したがって担当者の事業説明、入札契約書の事業内容チェック、指名審査会による工事概要審査、さらに市長決裁に至る一連の作業過程を考えると業務態勢の欠落を指摘せざるを得ない。なぜなら県費といえども納税者が汗した「税」であるという認識に欠けているからである。

議会はこのたびの議決に関して、総務常任委員長が一連の対応に責任をとる形で委員長を辞任した。それは議会の議決という「重さ」を重視したものである。当局においてもこの「重さ」を強く認識し、決して再発させないという強い決意を込めた責任ある対応を望むものである。

以上、議会の決議をもって市当局の猛省を促すものである。

平成18年9月27日

議長の一言



佐藤 峯夫

本定例会ほど当局と議会の在り方が問われたことはない。

職員による議会無視が、総務常任委員長への責任に及び辞任にまで発展した。

市長には、議会に対する説明責任と職員に対する監督責任

市民に対する結果責任があり、十分なされたのか――。

地方議会は国会の立法機関とは異なり、「議事機関」と言われる意味の深さを再認識させられた本議会である。

九月二十七日

議会終了後議長室にて

八柳委員長辞任

九月定例議会冒頭、本会議に誤った審査内容を報告したことについて、議会、議員の皆様にお詫びをし、総務常任委員長として責任をとりたい旨の発言があった。

この後、ただちに八柳委員長の委員長辞任願いを審査するため、総務常任委員会が開催された。

委員会では、総務委員会、全体の責任でもある。当局の誤った説明もあり辞任すべきではないとの意見も多かったが、八柳委員長の「意志」を重く受けとめ、「消極的」全会一致で受理された。

後任の委員長には、副委員長の真崎寿浩議員、副委員長には佐藤直樹議員が互選された。

控室風景

田沢湖病院から、又、医師一人が退職して救急外来を受付することができなくなりました。

議会議中、議員控室では、「医者はいないのか。」

「誰かさがして来い、親せき、知り合いにいないか。」等々。

市にはふたつの市立病院と診療所、多くの開業医がある。

議員の方からは、

「開業医の皆さんの力も借りる方向も考えてみたらどうか」

など、柔軟な意見もでてくる。

議会も市と一緒に、医師対策に本腰を入れてガンバラなければならない。

読者の皆様の情報をよろしくお願い致します。



請願・陳情・意見書

各常任委員会に付託された陳情書について各委員長より報告がありました。

採択されたもの

- ・仙北市西木町小山田字八津地区の道路改良について
- ・駅抱返り四号線線幅改良工事について
- ・「集配局の廃止再編計画」に反対する意見書「採択に関する陳情について
- ・危険校舎市立神代小学校改築について

不採択となったもの

- ・武力攻撃事態等における「市町村国民保護計画」策定に反対する陳情
- ・「この計画は平和主義には反しない」等の意見が出され採決の結果、不採択となりました。

継続審査となったもの

- ・柴倉出口地区国土調査の間違い訂正の陳情
- ・中国における法輪功学習者の臓器摘出の実態調査を求める陳情書
- ・高野会館外構工事助成について

意見書

- ・住民の暮らしを守り、公共サービス拡充を求める意見書
- ・集配局の廃止再編計画に対する意見書

以上の意見書を作成し、各関係大臣に提出した。

編集後記

いろいろあった議会でした。

田沢病院の問題、新聞にも載った国体、馬場の問題。

来年は国体があります。

「かくのたて」では「馬術」が行われる事になっている。

前のページに仙北市の責任ある対応を求める決議。

という文章がありますが、最後の所に、「市当局の猛省を促す」とあります。

国体事務局から議会だより広報委員会に文章が来ています。

総務常任委員長がなぜやめたのか、総務委員会の中でも疑念の声があります。

先日、ある市の議会の広報委員会の皆さんが私達の広報委員会を訪問されました。

その市の議会広報は市の職員が手伝うということでした。

仙北市議会の議会広報委員会は原稿の段階から最後まで自主独立です。

皆さん、どう思われますか。

議会と市は両輪とはいいますが、言う事はお互いに言わなければなりません。